

68年、縁あって、三菱電機に入社し、三菱電機のコンピュータ MELCOM の基本ソフトウェアを開発する部門に配属された。最初に研修があり、そして、職場に少々慣れてきた夏頃、コンピュータをやるなら、学会に入るものだと先輩からの教えに従い、早速本会に入会した。そして、すぐに本会の恩恵に預かることになった。運良く、入社早々、本会の PL/I 研究委員会に参加することができ、委員会でまとめた報告を学会誌に文献 1) として、載せていただいた。このとき、上長からの委員会出席打診に関しては、すぐに行きますとの返答をしたことを覚えている。

その後も、日本電子工業振興協会関係の委員会、NC 用言語 APT 委員会、本会関係の学会誌編集委員会や標準化会議などに出席するため、毎週のように機械振興会館などに出かけたものである。標準化に関する委員会への参加は、とても良い経験になった。特に、OSI (開放型システム間相互接続) 国際標準化においては、いろいろな国の代表の方々の討議は有意義であった。また、一緒に参加した日本代表の仲間たちと、毎日会議終了後、明日に備えての対策を練ったり、週末は仲間たちと歴史の研究をしたり。これにより、自分の会社の人だけでなく、異なった環境で育った方々との密接な人間関係を築くとともに、技術力のレベルアップにつながった。

また、研究成果発表の場としては、本会と電子情報通信学会の全国大会、次に、日本固有の研究会、そして、ジャーナルや、IEEE をはじめとする国際会議への発表へと進展していった。

このように、お陰様で、私が所属した三菱電機は、学会など外での活動に次々出させてくれた。

ここで、私の知人であるお二人の活動を紹介したい。まず、一人は、三菱電機の先輩で、静岡大学の

教授であった故市川照久先生で、学会での成果発表と企業の業績とは正比例の関係があるという研究成果を三菱電機の評価システムで実践された。また岡山大学工学部長の谷口秀夫先生は、自分の大学で調査した結果、研究成果は出張回数に比例することが分かり、積極的に出張するよう指導しているとのことであった。

外に出るから、いろいろな人から、いろいろサジェスションが得られ、良い研究ができる。そうすると、外部資金も獲得でき、また、外に出かけることができる。良い研究と研究成果はどちらが先かは何とも言えないが、関係があることは確かである。

応  
般

[シニアコラム]

IT 好き放題



[No.40]

## 外に出よう・外に出させよう

企業の方は、学会で発表しようと思ったとき、理解ある上長の方でも「そうね、発表することは良いことです。でも、あの件、ちゃんと進んでいるよね」と、言われたときに、どうするか。ここで、及び腰にならず、大丈夫ですと答えることが大事だと思う。一方、その活動を理解していただけていないところでは、「発表したらいくら儲かる」と聞く上長が結構多い。だけど、そこで、逡巡せず、目標に向かって努力を続けたいものだ。

改めて、「かわいい子には旅をさせよ」ということわざ通り、「外に出よう」「外に出させよう」の実践が大切になると思う。

### 参考文献

- 1) PL/I 研究委員会 (池野信一、水野忠則 他) : PL/I の形式的定義について (1), 情報処理, Vol.11, No.8, pp.457-466 (Aug. 1970).  
(2014年2月16日受付)

## 水野忠則 Tadanori MIZUNO

愛知工業大学

[正会員] mizuno@mizulab.net

1969年名古屋工業大学経営工学科卒業。同年三菱電機(株)入社。1993年静岡大学工学部情報知識工学科教授。1996年同情報学部情報科学科教授。2006年同創造科学技術大学院教授。2011年より愛知工業大学教授。工学博士。元本会副会長。

